



三重県保健環境研究所 環境研究課



今回紹介するのは、三重県保健環境研究所環境研究課です。当研究所は、昭和42年に公害センターとして発足し、その後、昭和51年に環境科学センターと改称、平成11年には衛生研究所と統合して科学技術振興センター保健環境研究所となりました。その後も組織改編があり、平成20年から保健環境研究所として現在に至ります。環境部門は、大気と化学物質の試験検査、調査研究を主に行う当課と、水と廃棄物の試験検査、調査研究を主に行う資源循環研究課の2課からなっており、当課の職員は、現在6名（うち1名は副所長を兼務）で業務を行っています。



三重県保健環境研究所

当課では、工場・事業場から排出されるばい煙およびVOCの測定、解体工事等の現場周辺（敷地境界等）におけるアスベスト調査、有害大気汚染物質モニタリング調査、微小粒子状物質（PM_{2.5}）成分分析調査、化学物質環境実態調査などを行っています。一部の業務では試料採取を委託していますが、ほとんどの業務で職員が実際に現場に行き、試料採取を行っています（研究職ですが、意外と肉体業務です）。試料採取は、職員同士で連携しながら行うことが多いため、日頃から職員間の和を大切にしています。

研究業務は、現在、「環境大気中におけるアルデヒド類の測定方法等に関する研究」と「大気中微小粒子状物質（PM_{2.5}）発生源推定に関する研究」について行っています。テレビや新聞等のマスメディアでも大きく取り上げられたこともあり、一般の方も注目している大気中微小粒子状物質（PM_{2.5}）については、県独自の研究とは別に、国立環境研究所や地方環境研究所と共同で行っている「PM_{2.5}の環境基準超過をもたらす汚染機構の解明に関する研究」に参加したり、近隣の愛知県および名古屋市の研究機関との共同調査研究に参加することにより、広域的な汚染機構の解明に努めています。

三重県においても、ほかの自治体と同様に環境研究所を取り巻く状況は、非常に厳しくなっていますが、我々が行っている調査および研究業務が県民のみなさんの安全な暮らしのために役立つことを職員一人一人が意識し、モチベーションを上げながら、日々の業務を行っていきたくと考えています。

（環境研究課 寺本佳宏）



ばい煙測定



アスベストサンプリング



有害大気モニタリング調査サンプリング



PM_{2.5}サンプリング